

史跡名勝天然記念物の指定等

《史跡の新指定》 6件

1 ^{まつくらじょうあと}松倉城跡【^{たかやまし}岐阜県高山市

松倉城跡は、16世紀後半に高山盆地に進出した飛驒国南部の領主三木^{みつぎし}氏の拠点で、標高856.7mの松倉山山頂に築かれた山城跡である。北東と東の尾根筋に堀切や曲輪を設け、山頂部に本丸、二ノ丸、三ノ丸を配しこれらを総石垣化している。本丸の北側中心部は穴蔵^{あなぐら}状に石垣が囲む。

本丸と、その南西に伸びる三ノ丸には、5～8mの高さで、長さ2mを超える巨石を用い、隅角部に算木積みを志向する高石垣が築かれる。一方、本丸東にある二ノ丸の北側及び南側には小型の石材を用いた低い石垣が、東側には隅角部は算木積みを目指すが大部分が中小石材による乱積みの石垣が築かれている。粗い石積みや竪堀、堀切等を用いて北側と東側を意識する遺構と、高石垣を築き西側と南側からの防御を意識する二系統の城郭遺構から、二段階で築城された状況が想定される。三木氏による当初の築城と、その後の改修によるものと考えられる。

また、三ノ丸南には出柵形虎口、三ノ丸北西には埋門^{うずみもん}が設けられていたが、一帯が築石^{つぎいし}等で埋められ、本丸北側と同様に、破城された痕跡と考えられる。

戦国時代の飛驒国の政治状況や、土造りの城から石垣を持つ城、そして破城、という城郭の変遷を知る上で極めて重要な遺跡である。

2 ^{まえはたいせき}前畑遺跡【^{ちくしのし}福岡県筑紫野市

前畑遺跡は、大宰府政庁の南東、福岡平野と筑後平野とを結ぶ狭長な平野部に向かつて脊振^{せぶり}山地から東に延びる丘陵に立地する古代の土塁状遺構である。

土塁状遺構は、下端幅14～15m、全体高2.5～3.5mの二段築成を基本としており、丘陵の稜線からやや下った斜面や鞍部に、長さ558m以上にわたって断続的に確認されている。南北に延びる土塁状遺構の東側にある丘陵の頂部で7世紀中葉の小規模な円墳が確認されていること、残存する土塁状遺構の約4m東側の本来土塁状遺構が延伸していたと考えられる場所に9世紀後半の土坑墓が確認されていることなどから、7世紀中葉以降から9世紀後半頃までの間に機能していたと考えられている。

前畑遺跡の土塁状遺構の構築法は多様であり、古代の技術を知る上でも重要であるとともに、大宰府と強い関係性が指摘される阿志岐山城跡^{あしきさんじょうあと}、基肆城跡^{きしじょうあと}というふたつの古代山城を結ぶライン上に位置することは、その性格を考えるうえで示唆的である。さらに、水城跡^{みづきあと}、大野城跡^{おおのじょうあと}、基肆城跡^{きしじょうあと}、関屋土塁^{せきやどるい}、とうれぎ土塁等とともに要衝施設の一つとして有機的に連動し、自然地形を取り込む形で一体的に機能して大宰府の外郭線を構成している可能性が指摘されるなど、九州の拠点であり、古代の外交窓口であった大宰府の

構造を考える上でも重要である。

3 島原城跡【長崎県島原市】

島原城跡は、有明海に面し雲仙岳東方の扇状地上に、松倉重政により築かれた近世城郭の跡である。東西約350m、南北約1,200mの長方形の外郭線内に、南から方形の本丸、二ノ丸、そして三ノ丸御殿を直線上に配置し、その外側に家臣団の屋敷群を置き、外郭に31棟の櫓を規則的に置いた石垣で囲む堅牢な城郭である。寛永14年(1637)に勃発した島原・天草一揆では一揆勢の包囲を撃退している。一揆後に松倉氏が改易され譜代大名の高力氏が入った後、途中宇都宮藩主の戸田氏との交代期を挟みながら深溝松平家の居城となり、明治維新まで島原藩の政庁として機能した。

本丸には、径最大3mの鏡石を持つ織豊系城郭の様式の石垣と、算木積み志向する高さ17mの高石垣があり、近世城郭へ至る過渡期の石垣の特徴が見られる。堀が囲む本丸と二ノ丸は、郭内に枳形空間を並置し防御を意識した堅固な構造を持つ。また、外曲輪には、当時の屋敷割が継承され、現在の小早川氏庭園周辺は敷地内の庭園等を通じて城内の水利状況を伝える。

江戸幕府が新規築城を制限した中で築かれた数少ない城郭で、有明海を介して雄藩と接する位置にあるため、幕府も重要視した。江戸時代初期の島原半島や周辺地域との関わりを伝える重要な遺跡である。

4 越高遺跡【長崎県対馬市】

長崎県対馬市上県町越高(対馬北西部)の海岸に位置する縄文時代早期末から前期にかけての集落遺跡である。A地点と尾根を挟んで約50m離れたB地点の2地点で構成され、A地点の海岸部では板石を約1.1m四方に組み合わせた炉跡が確認された。規格性の高い方形炉は朝鮮半島東海岸から南海岸沿いの遺跡に認められるものであり、日本列島には類例のないものである。

また、両地点では縄文時代前期の土器と朝鮮半島南部の新石器時代早期から前期の土器群とが相伴しつつ層位的に出土した。また、各層から出土した石器のうち主体となるのは、佐賀県伊万里市の腰岳産黒曜石を利用した打製石鏃であり、同多久市に原産地を有するサヌカイトを利用した削器類も出土する。その他、磨製銚頭や大型ナイフ等、朝鮮半島南海岸地域で出土するものと類似する石器が含まれる。

本遺跡は、対馬最古の遺跡であり、縄文時代早期末から前期にかけての九州と朝鮮半島の特徴を有する遺構・遺物が出土している。縄文文化と朝鮮半島南部の新石器文化の境界域における特徴を示す遺跡であり、我が国における縄文文化の多様性を具体的に示

す重要な遺跡である。

5 臼杵城跡【大分県臼杵市】

臼杵城跡は、有力戦国大名の大友義鎮（宗麟）によって弘治2年（1556）に臼杵川河口にある東西約420m、南北約100mの丹生島に築かれた島城である。大友氏退転後に石垣、枡形、瓦葺建物等が造営され、祇園洲と呼ばれる砂州を三之丸として城域を拡張した。

丹生島西側からは大友氏期の政治執行空間である「御殿」と想定される遺物・遺構が確認され、築城当初は海側を大手とし西半を主郭としていたと考えられる。大友氏の後に入った太田一吉は、城郭の石垣化を進め、主郭と副郭を反転させ丹生島東側を本丸として天守を築いた。丹生島西岸と砂州を橋で結び、架橋場所の古橋口を大手とし、祇園洲を三之丸として造成し始めた。関ヶ原合戦後に入部した稲葉氏は、本丸と二之丸を連郭式縄張りに整え、三之丸の拡張整備を進め、三之丸との通路として今橋口登城路を新たに設けた。17世紀中葉には天守の改修を実施し、延宝3年（1675）に城主居館を本丸から西之丸（二之丸）へ移した。

天然の要害としての地形的特徴を生かして築かれた中世城郭が、城主の変遷とともに内部構造や空間構成を変えながら、織豊系城郭、近世城郭と発展し、度重なる改修を経て、明治期の廃城まで利用された城郭の変遷を物語る重要な遺跡である。

6 与論城跡【鹿児島県大島郡与論町】

与論城跡は、標高93mの琉球石灰岩の台地の縁辺部から断層崖下までの比高差70mの急斜面とその間の平坦面に立地する最北端の琉球式グスク跡。発掘調査の結果、沖縄においてもグスクの整備が始まる14世紀前半～中頃に台地部分の造成と石垣の構築が開始され、沖縄本島において三山と明との交易が活発化した時代から尚巴志による三山統一が行われる14世紀後半～15世紀中頃に、崖下部分の造成や石垣や建物の構築が行われ、現在の城域が整備されたと考えられる。

そして、第二尚氏による中央集権化が進められ、琉球王国の勢力が拡大していく15世紀後半～16世紀に、城としての機能が急激に低下し、薩摩による琉球侵攻が行われる17世紀以前に廃絶する。

与論城跡は、境界領域の城郭として、明、琉球、奄美、薩摩などによる東シナ海域の歴史的な状況の変化に連動し、築城され、変遷を遂げた城郭であったと言え、当時の南方社会の実態を知る上でも重要である。また、保存状態も良好で、築城技術には琉球の影響が強く認められるなど、琉球式グスクの築城技術の伝播を知る上でも重要である。

《特別史跡の追加指定》 2件

1 藤原宮跡【奈良県橿原市】

持統天皇8年(694)から和銅3年(710)まで営まれた古代の都城跡。藤原京跡の中心部に位置し、約1km四方の区画内に内裏、大極殿及び役所群が建てられた。今回、条件の整った部分を追加指定する。

2 大宰府跡【福岡県太宰府市】

古代において西海道諸国(現在の九州)の統括と大陸外交の拠点として設置された役所跡。天智天皇2年(663)の白村江の戦いの後、水城や大野城などが築かれ防備が強化された。今回、条件の整った部分を追加指定する。

《史跡の追加指定及び名称変更》 2件

1 讚岐遍路道【香川県善通寺市】

曼荼羅寺道

甲山寺境内

善通寺境内

根香寺道

志度寺境内

大窪寺道

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道の讚岐国(香川県)部分。今回、江戸中期の本堂と江戸後期の大師堂、山門、鐘楼などが残り、背後に甲山がある第74番札所甲山寺境内を追加する。第75番札所善通寺の北1.2kmに位置する。

2 ^{とさへんろみち}土佐遍路道【^{むろとし}高知県室戸市・^{とさしみずし}土佐清水市】

^{ほつみさきじみち}
最御崎寺道

^{こんごうちょうじみち}
金剛頂寺道

^{こんごうちょうじけいだい}
金剛頂寺境内

^{こうのみねじみち}
神峯寺道

^{ちくりんじみち}
竹林寺道

^{ぜんじふじみち}
禪師峰寺道

^{きよたきじけいだい}
清瀧寺境内

^{しょうりゅうじみち}
青龍寺道

^{こんごうふくじみち}
金剛福寺道

^{かんじざいじみち}
観自在寺道

空海ゆかりの霊場を巡拝する信仰の道の土佐国（高知県）部分。今回第24番札所最御崎寺に向かう道、第26番札所金剛頂寺に向かう道、金剛頂寺境内、第27番札所神峯寺に向かう道（以上室戸市）、第38番札所金剛福寺に向かう道（土佐清水市）を追加指定する。

《史跡の追加指定》 26件

1 ^{これかわせつきじだいせき}是川石器時代遺跡【^{はちのへし}青森県八戸市】

縄文時代前期～晩期の大規模な集落遺跡。縄文時代集落の構造や変遷が明らかになるとともに、晩期には低湿地から大量の漆器・木製品・彩色土器・土偶などが発掘されるなど豊かな生活様式を明らかにした。東北地方の縄文文化を代表する遺跡として極めて重要である。今回、条件の整った部分を追加指定する。

2 ^{かしまじんぐうけいだい}鹿島神宮境内 ^{つけたり}附 ^{ぐうけあと}郡家跡【^{かしまし}茨城県鹿嶋市】

『常陸国風土記』にもみえ、古来より朝廷・藤原氏・武家の崇敬を集めた我が国を代表する神社と、常陸国鹿島郡の郡家（役所）の跡。郡家跡では政庁、正倉院、工房等の跡が見つかっており、今回、正倉院南西部を区画する大溝を検出した周辺範囲を追加指定する。

3 ^{こうずけのくにさ い ぐんしょうそうあと}上野国佐位郡正倉跡【^{いせさきし}群馬県伊勢崎市】

7世紀後半から10世紀前半にかけて機能した^{こうずけのくにさ い ぐうけ}上野国佐位郡家の正倉と考えられる遺跡。全国でも最大級の正倉域をもち、八角形倉庫をはじめとする多数の礎石建物や掘立柱建物が検出された。八角形倉庫は『^{こうずけのくにこうたいじつろくちょう}上野国交替実録帳』で「^{はちめんこうそう}八面甲倉」と記載さ

れた建物に符合し、上野国佐位郡家であることが確認された遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

4 中山道【群馬県安中市】

江戸時代の五街道の一つで、江戸日本橋から草津宿で東海道の合流するまでの街道。今回は、横川にある碓氷関跡と、坂本宿西方の街道が残る箇所から、碓氷峠へと登り、軽井沢宿の東方にある碓氷峠の熊野神社までの約8 kmを追加指定する。途中には刎石茶屋跡や堂峰番所跡などが所在する。

5 下野谷遺跡【東京都西東京市】

墓と考えられる中央部の土坑群を取り囲むように、竪穴建物群と掘立柱建物群が直径150mの範囲で配置される。規模・内容とも南関東の同時期の集落では傑出しており、縄文時代中期後半の大規模な環状集落として重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

6 下寺尾官衙遺跡群【神奈川県茅ヶ崎市】

神奈川県東部に所在する相模国高座郡家と考えられる官衙遺跡群。正庁・正倉は7世紀末から8世紀中葉まで二期にわたって変遷し、その南西部には七堂伽藍跡と呼ばれる郡寺が所在している。今回、条件の整った部分を追加指定する。

7 下寺尾西方遺跡【神奈川県茅ヶ崎市】

弥生時代中期後半に営まれた環濠集落跡。出土遺物には土器のほか石器と鉄器があり、利器が石器から鉄器へと移行していく時期の在り方を示している。南関東における拠点集落であり、弥生時代中期社会の様相を知るうえで重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

8 松本街道【新潟県糸魚川市】

越後糸魚川と信州松本を結ぶ北陸道の脇街道で、姫川溪谷を南下する山越えの道。塩や海産物を牛やボッカの背で運んだ道で、塩の道として著名。山口番所を過ぎた後の山道が約3.0 km指定されている。今回、江戸時代の遺構が検出された山口番所跡を追加指定する。

9 おうみおおつのみやにしこおりいせき おおつし
近江大津宮錦織遺跡【滋賀県大津市】

てんじてんのう
天智天皇6年(667)、天智天皇が飛鳥から遷し、琵琶湖西岸に営んだ古代の宮跡。
てんむてんのう
天武天皇元年(672)の壬申の乱で廃絶した。これまでの発掘調査によって、内裏正殿、南門、回廊、塀等の宮跡中枢部分が見ついている。今回、推定宮跡北辺中央と内裏南門周辺の地点を追加指定する。

10 あのはいじあと おおつし
穴太廃寺跡【滋賀県大津市】

琵琶湖西岸に所在する7世紀後半の寺院跡。発掘調査により、現在の地割方向に中軸をとる創建期の伽藍跡と、その上層にあり、真南北に中軸をとる再建期の伽藍跡が見ついている。今回、推定寺域の北西部、創建期寺域西辺にあたる範囲を追加指定する。

11 しものごういせき もりやまし
下之郷遺跡【滋賀県守山市】

琵琶湖東南部に位置する弥生時代中期の環濠集落。最多で9重の環濠によって集落が囲まれ、集落の入口や中枢部と推定される方形区画が確認されている。環濠から木器や自然遺物が大量に出土しており、当時の集落構造や社会、人々の生活を考える上で重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

12 たじまこくぶんじあと とよおかし
但馬国分寺跡【兵庫県豊岡市】

奈良時代、聖武天皇の発願によって全国に建立された国分寺の一つ。金堂、中門、回廊や塔の遺構が見ついている。木簡も多く出土し、経営状況がよくわかる。今回、東面築地跡に当たる土地で条件の整った部分を追加指定する。

13 かもしせき かわにしし
加茂遺跡【兵庫県川西市】

弥生時代中期の集落遺跡。環濠に囲まれた中心域に居住区と墓域、環濠の外側にも居住区が形成され、中心域には大型建物とそれを囲む板塀の方形区画が造られた。近畿地方の大規模弥生集落のあり方を具体的に示すものとして重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

14 ふじわらきょうあと かしはらし
藤原京跡【奈良県橿原市】

すざくおおじあと
朱雀大路跡

さきょうしちじょういち にぼうあと
左京七条一・二坊跡

うきょうしちじょういちぼうあと
右京七条一坊跡

じとうてんのう わどう とじょうあと
持統天皇8年(694)から和銅3年(710)まで営まれた古代の都城跡。中心に

ある藤原宮跡は特別史跡となっている。朱雀大路跡は宮の正門である朱雀門から南へ延びる道路跡で、それを境に東側を左京、西側を右京に区分する。今回、左京七条一・二坊跡及び右京七条一坊跡で条件の整った部分を追加指定する。

15 だいかんだいじあと かしはらし 大官大寺跡【奈良県橿原市】

ふじわらきようじょうぼう 藤原京条坊の南東に位置する巨大な古代寺院跡。てんむてんのう 天武天皇2年(673)に建立した高市大寺を天武天皇6年(677)に大官大寺に改称し、現位置にはもんむ文武朝に移ったと考えられる。平城京大安寺の前身寺院。こんどう 金堂や講堂、塔、回廊の跡などが残る。今回、北西隅部の条件の整った部分を追加指定する。

16 しょうぶいけこふん かしはらし 菖蒲池古墳【奈良県橿原市】

奈良盆地南部の低丘陵に所在する7世紀中葉の大型方墳。2基の家形石棺を納めた横穴式石室を有する一辺30mの方墳で、7世紀中葉の飛鳥地域を代表する終末期古墳であり、日本の古代国家の形成を考えるうえでも重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

17 まきむく さくらいし 纏向遺跡【奈良県桜井市】

奈良盆地東南部に位置し、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて営まれた東西2km、南北1.5kmに及ぶ大規模な集落遺跡。史跡まきむくこふんぐん纏向古墳群やはしはかこふん箸墓古墳が隣接し、我が国の古代国家形成期の様相を知るうえで重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

18 みややまこふん ごせし 宮山古墳【奈良県御所市】

奈良盆地南西端の巨勢山丘陵北麓に、古墳時代中期前葉に築造された墳長約245mの大型前方後円墳。後円部に2基の竪穴式石室の埋葬施設、墳丘に葺石と埴輪が認められる。周濠と周堤を巡らし、周堤に組み込まれた位置に方墳のネコ塚古墳が存在する。今回、条件の整った部分を追加指定する。

19 うだまつやまじょうあと うだし 宇陀松山城跡【奈良県宇陀市】

奈良盆地の東南隅の山間地に位置する、中世から近世にかけての山城跡。元和元年(1615)に破却。高石垣と複雑な構造の虎口をもち、礎石建瓦葺建物を配するなど、近世初期城郭の特徴を備える。城跡北側斜面部分の条件の整った部分の追加指定を行う。

20 ちゆうぐうじあと 中宮寺跡【いこまぐんいかるがちょう 奈良県生駒郡斑鳩町】

飛鳥時代（7世紀前半）に創建された寺院で、四天王寺式伽藍配置をもつ。『法隆寺ほうりゅうじがらんえんぎならびにきしざいちょう流記資財帳』によると聖徳太子建立の七か寺の一つに数えられるなど、聖徳太子ゆかりの寺院である。今回、伽藍北限とみられる箇所について追加指定する。

21 あすかきゆうせき 飛鳥宮跡【たかいちぐんあすかむら 奈良県高市郡明日香村】

7世紀代に歴代の天皇の宮殿が造営された宮跡。発掘調査の結果、あすかおかもとのみや 飛鳥岡本宮（じよめい 舒明天皇）、あすかいたぶきのみや 飛鳥板蓋宮（こうぎよくてんのう 皇極天皇）、のちのあすかおかもとのみや 後飛鳥岡本宮（さいめいてんのう 齐明天皇）、あすかきよみはらのみや 飛鳥浄御原宮（てんむ 天武天皇・じとうてんのう 持統天皇）の各期の遺構が確認された。今回、内郭南西部等条件の整った部分を追加指定する。

22 おごおりかながいせきぐん 小郡官衙遺跡群【おごおりし 福岡県小郡市】

おごおりかながいせき 小郡官衙遺跡
かみいわたいせき 上岩田遺跡

7世紀の役所跡である上岩田遺跡と、その2. 1km西方に位置する8世紀の役所跡ちくごのくにみはらぐけで筑後国御原郡家に比定される小郡官衙遺跡からなる遺跡群である。今回、条件の整った小郡官衙遺跡の北端部を追加指定する。

23 すぐおかもといせき 須玖岡本遺跡【かすがし 福岡県春日市】

福岡平野の南部に所在し、弥生時代中期から後期にかけての墓域、青銅器工房、居住域からなる『ごかんじょういであん後漢書東夷伝』に登場する「奴国」の中心地とされる遺跡。今回、条件の整った有力者集団の墓域や青銅器工房域と推定される範囲の一部を追加指定する。

24 こべいせき 小部遺跡【うさし 大分県宇佐市】

すおうなだ 周防灘に面した宇佐平野上うさへいやに立地する古墳時代前期の集落遺跡。前期初頭には環濠集落、前期前半には環濠内部に方形区画を伴う大型掘立柱建物を有する居館、さらに前期後半には墓域へと変遷する。古墳時代前期における社会構造の変化を考えるうえで重要な遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

25 つかざきこふんぐん 塚崎古墳群【きもつきぐんきもつきちやう 鹿児島県肝属郡肝付町】

鹿児島県の志布志湾沿岸しぶしわんに所在する古墳時代前期後葉頃から中期中葉まで営まれた古墳群。古墳文化の南限として重要。33号墳や、地下式横穴墓が存在する可能性のある地区について、条件の整った部分を追加指定する。

26 ちやたんじょうあと 北谷城跡【なかがみぐんちやたんちよう 沖縄県中頭郡北谷町】

13世紀後半から16世紀前半にかけて、沖縄本島西海岸沿いの舌状丘陵に営まれた中山地域の拠点となったグスク跡。南北約165m、東西約500mの範囲に野面積の石垣や切岸により五つの曲輪を配置する。今回、二の曲輪及び四の曲輪の南側斜面から麓にかけての部分、東グスクの北側及び東側の一部について追加指定する。

《名勝の新指定》 1件

1 のいけ 納池【たけたし 大分県竹田市】

納池は、標高1,700m級の峰々が連なるくじゅう連山の南麓に広がる久住高原の南端部に位置する。久住高原には、それらの火山群に起源する火砕流堆積物、軽石層、火山灰層などから成る火山麓扇状地が発達していて、標高600～1,000mの緩斜面を成す裾野には湧泉や湿地が広く分布する。納池は、こうした火山麓扇状地末端からの湧泉によって形成された景勝地で古くから知られ、明治6年(1873)の公園設置に係る地所選択についての府県への太政官布達第16号にいち早く応じて、同年7月20日付けで直入郡桐迫村の保長らから大分県権令に申し出られた「人民游観之場所願」を受け、明治8年6月2日に公園として認可された。その敷地は、北西から南東に細長い緩やかな谷戸の地形にあって、北端奥部から切り込む比高差10m余りの急斜面下に広がる緩斜面のそこここから湧水を生じて沢を成し、その南に広がる池泉左岸の岬には、水の流れを司る水波能売命を祀った納池神社が鎮座する。池畔は古くから育まれてきた森厳なるスギ木立に囲まれ、清浄な池泉を中心とした風致景観に優れた基調を添えている。太政官布達に基づき初期に開設された公園の九州地方における事例として貴重で日本公園史における学術上の価値が高く、湧泉に特徴付けられる風致景観は優れている。

《天然記念物の追加指定》 1件

1 ごゆ 御油の松並木【なみき とよかわし 愛知県豊川市】

旧東海道に残されたクロマツの並木である。江戸時代からの古木も見られ、江戸時代後期の姿を今に残す代表的なものである。並木マツの根系を保護する目的で、道路敷の外側約15mを保存区域とし、順次追加指定を進めている。今回は同意の得られた民有地を追加指定するものである。